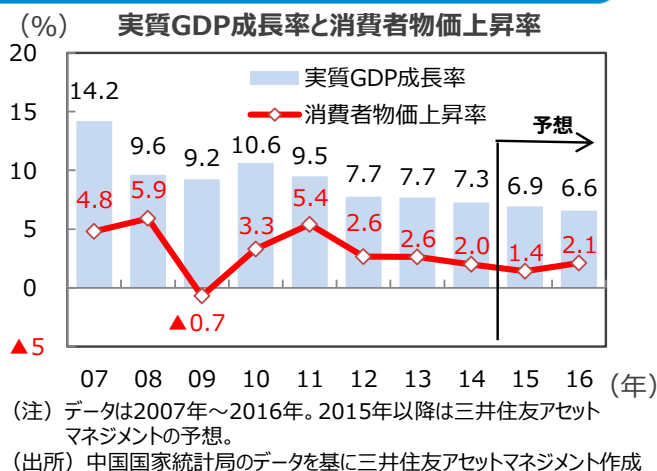


今日のトピック

2016年の中国経済の見通し 成長率は6.5%程度へ減速

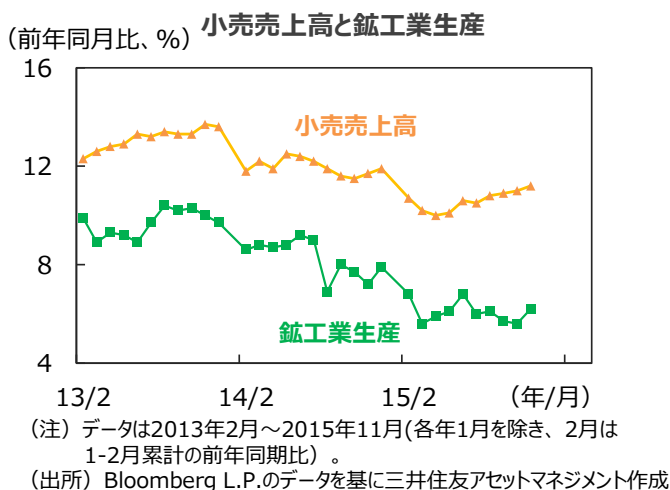
ポイント1 15年の成長率は6%台へ 5回の利下げで景気サポート

- 15年の中国のGDP成長率は、輸出減、不動産投資の抑制、設備過剰業種の生産調整などにより前年比6%台に減速する見込みです。一方、小売などのサービス業は底堅く、景気を支えました。
- 中国人民銀行（中央銀行）は、15年中5回の利下げなどの金融緩和で景気をサポートしました。物価が概ね1%台の低位であったことも積極的な金融緩和を後押ししました。



ポイント2 16年は6.5%程度へ 構造調整継続し、「新常态」へ

- 12月に開催された中央経済工作会议では、構造改革と中高速の成長の両立した「新常态」を目指す方針を確認しました。共産党と政府は、①過剰生産能力の削減、②企業コストの低減、③不動産在庫の削減、④技術革新の推進、⑤金融のリスク管理強化、の5つの政策に重点を置きました。
- 習主席は次期5カ年計画の草案公表時に、20年まで最低年6.5%以上の成長率を保つと明言しました。物価は引き続き低位での推移が予想されます。



今後の展開 追加緩和と積極財政のサポートで、バランスのとれた成長へ

- 中国人民銀行は、政策金利である貸出金利の引き下げなどで、景気を支えと見込まれます。貸出金利の引き下げは、企業の資金調達コストを引き下げる狙いもあると見られます。
- 中国政府は、積極的な財政政策により、5つの重点政策を推進することが見込まれます。その結果、財政赤字のGDP比は拡大する方向です。
- 対外開放を推進する新シルクロード「一帯一路」戦略、一人っ子政策の廃止、都市政策の見直しなど、中長期の成長戦略に引き続き力点が置かれ、政策対応で景気の失速は回避されると予想されます。

ここもチェック! 2015年12月28日 2016年のASEAN5カ国経済の見通し 2015年12月22日 2016年の日本経済の見通し

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。